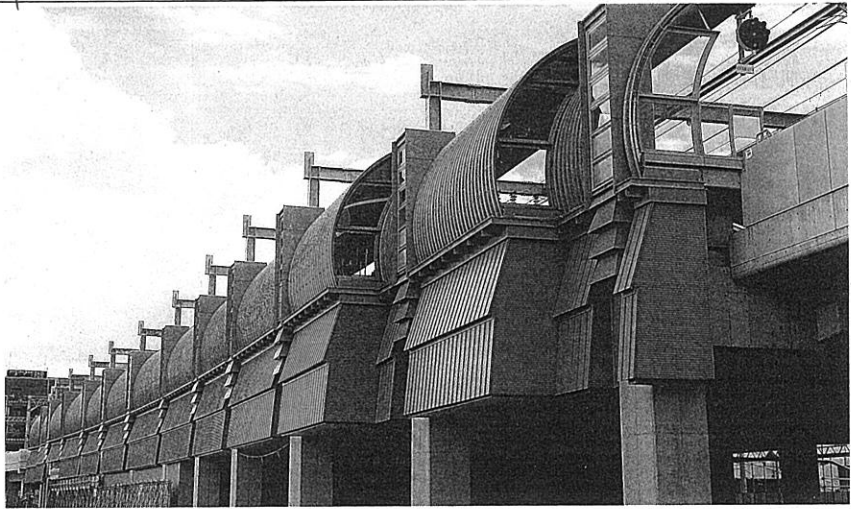


陸にそびえる帆掛け船



阪神電鉄鳴尾駅 (西宮市里中町3)

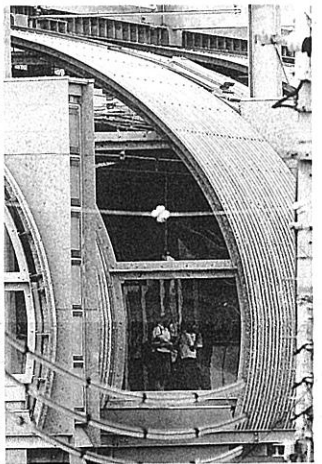
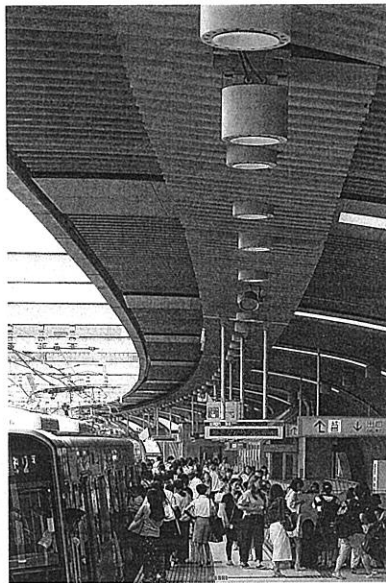
フォーカス 阪神

今春、線路の高架化に伴い、阪神電鉄鳴尾駅が生まれ変わった。新しい駅舎は、プラットホームの外壁が卵の殻のように丸い。このデザイン、地元の武庫川女子大生ら大学院建築学専攻の教員や学生が提案。阪神電鉄や施工者と、産学連携で完成させた。

武庫川女子大生らデザイン

曲面の外壁は、かつて鳴尾浜沖を吹き飛ばした帆掛け船から着想したと、つ新しい駅舎が誕生した。

(三津山朋彦)



丸い外壁は、風をはらんだ船の帆から着想した—西宮市里中町3



① 独特な形状が芸術作品のよう。いずれも西宮市里中町3
② 柱がなく広々としたプラットホーム

模型を使い、関係者に駅舎のデザインを説明する大学院生ら
西宮市戸崎町、武庫川女子大生ら